

イチヨウ(銀杏)と銀杏(ギンナン)

黄金色に美しく色づいたイチヨウは私たちになじみが深い植物です。気温が10℃を下回ると黄葉が始まり、5℃以下になると色付きが一気に進みます。

全国の街路樹(高木)の中で最も多いのがイチヨウで、私たちの目によくふれるわけです。ただし品川区内の大木はサクラが最も多く、続いてケヤキ、シイ、クスノキそしてイチヨウで、この5種で全体の約7割を占めています。(平成14年品川区調査)

品川区には天然記念物のイチヨウが何箇所かあります。例えば光福寺、品川寺(おせんじ)、稼穡(カシク)稲荷社のイチヨウです。



区役所前のイチヨウ

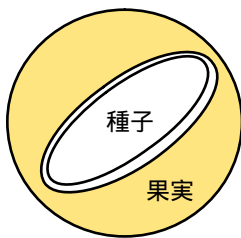


左の写真は区民環境記者秋田様から昨年11月末に送っていただいた品川稼穡稲荷社のイチヨウの写真です。晩秋になると公園、お寺や神社の境内などでは黄葉したイチヨウが見られますが、その木の下には独特な臭いを発するギンナンの果実が落ちています。この臭いは野生動物から身を守るためといわれていますが、自身の色や形を変えることによって身を守っている生物もいます。

臭いとは違って、炒ったり、茶碗蒸しなど、料理で食べるギンナンのおいしさはまた格別です。

イチヨウは雌雄異株といって雄株と雌株がありますが、果実は雌株にだけなります。ただし一本の木で両方ある場合もあります。それでは雄株と雌株ではどこが違うのでしょうか。見分け方は木ではわかりませんが

葉っぱでわかり、雄木は葉っぱの真ん中に割れ目があり、雌木は割れ目がないといえます。しかしこれは俗説で植物学的な根拠はないともいわれています。そうは言うものの、何となく確からしい気がします。



種子：外側が硬い殻、内側部分を私たちは食べています
果実：独特の臭いを発する部分です

東京都のシンボルマークは都の木「イチヨウ」を図案化したもので、TOKYOの「T」を中央に秘め、これから東京都の躍動、繁栄、潤い、安らぎを表現したものだそうです。東京都以外にもイチヨウを自治体の「木」としているのは大阪府と神奈川県、都内では1区、8市があります。それだけ私たちの身近な木であるということですね。ちなみに品川区の木はシイノキとカエデです。

家庭で果実からギンナンを食べる場合は、2~3ヶ月果実を土に埋め、腐食して白い殻が出てきた後、水洗いして天日干しにすると販売されているギンナンになります。



大龍寺のイチヨウ

星薬科大学のイチヨウ

品川区環境情報活動センター 今後のイベント予定

「幕末の台場埋立てと品川宿」

江戸時代、台場埋立てにあたり御殿山の土を品川宿を突っ切って運ぶ工事が行われました。

日時/2月14日(日)14時~16時
対象/一般

光の実験:白い光の正体を探れ!

光の不思議を体験しましょう。
日時/3月7日(日)14時~16時
対象/小学生

「春の寄せ植え」

日時/3月、13時半~15時半
対象/一般

講座の名称等はいずれも予定です。内容、応募方法等については「広報しながわ」「品川区環境情報活動センター」のホームページにて後日掲載します。

しながわECOだより2009年度Vol.3

発行：品川区都市環境事業部
編集：特定非営利活動法人 エコタウンしながわ
発行日：平成21年11月30日
住所：〒140-8715 品川区広町2-1-36 品川区環境情報活動センター内
TEL/FAX：03-5742-6533
E-mail：center@shinagawa-eco.jp
HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

品川区環境情報活動センターを利用しませんか

センターのご利用について

環境に関する活動をする団体もしくは個人どなたでも無料でご利用いただけます。セミナー(会議室)その他、数人の方でご利用いただけるミーティングコーナー、環境に関する書籍・雑誌等を備えた資料コーナーがあり

ます。セミナーの予約については当センター窓口、あるいは下記ホームページで受け付けています。(http://shinagawa-eco.jp/)



見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう



品川区環境情報活動センターだより

2009年度 Vol.3

環境記者 活躍中 第10回環境記者情報交換会開催

平成21年10月24日(土)、第10回環境記者情報交換会が6名の環境記者の出席のもとで行われました。皆さんの活発な発言があり、終了予定時刻をオーバーしてしまいました。特に今回は従来にも増して幅広い内容での意見交換が行われ、改めて環境をテーマとした問題の広さについて考えさせられました。

インタメディア代表の佐山吉孝氏から、「昔のおもかげを探してまち歩き その二、大井の高台から浜川の海辺へ」と題してお話を伺いました。まちを歩いていると歴史や成り立ちを知るきっかけに出会います。



南大井二丁目の国道1号線沿いにある6棟のマンションの方々が協同して歩道の花壇の管理をしています。品川区民公園やしながわ水族館へ来る方が眺めていくくれます。

あるマンションの敷地内にユリノキがあります。それを切るという話を聞いたので、切らないようにしてほしいのですが・・・

緑を大切にしようと言っているながら実際の管理となると難しい。枯葉の掃除や住民からの苦情がないようにしたいということが問題らしい。

最近環境関係の新聞記事が増えており、その一例を紹介します。「緑のカーテン」は遮光だけでなく、葉の水分が蒸発するときに空気中の熱を奪う効果もあるとのこと。先生たちの本当のねらいは、こどもの心に資源を大切にすることを育つことだそうです。



環境記者の皆さんが取り組んでいる活動紹介と情報交換です

環境記者になって季節感を感じられるようになりました。カメラを持って散歩に出ると、ちょっとした変化も感じるようになりました。目黒川に関心がありますが、その浄化のために炭素繊維を使ったらどうかと思います。

品川区協働事業「花いっぱい」運動に参加しています。平塚二丁目町会の会館屋上で屋上緑化を進めており、常緑キリンソウを植えています。この花は小さな花ですが1年中緑で、屋上緑化に相応しい花です。



鳩山首相の国連気候変動サミットでの発表には驚きました。この達成のためには1990年比で温室効果ガスを30%削減しなければなりません。車は電気自動車や燃料電池車に、新たに建築する建物には太陽光発電設備を設置するなど、国民が本当に一致団結することが必要になります。ただしこのことについて良い悪いを言っているのではありません。

環境記者募集中

環境情報活動センターでは現在区民「環境記者」を募集しています。花の開花情報、地域の環境イベント情報など、身近な環境情報をメールなどでお寄せくださる方を環境記者

として登録します。いただいた記事や写真は環境情報活動センターのホームページなどに掲載します。区内在住、在勤、在学で環境に興味のある方のご応募をお待ちしています。詳細は環境情報活動センターまで(TEL5742-6533)

地球の歴史と環境問題 (9月13日)

講師：元防衛大学校教授 小西誠一氏



地球の誕生は約46億年前、人類が生まれたのはそのずっと後で、約400万年前。さらに環境問題が発生したのは地球の歴史から見ればつい最近のことです。

森林やオゾン層が破壊され、砂漠化が進み、皮膚がんが増加しています。化石燃料の使用により地球規模から見ればわずかこの100年で二酸化炭素は大幅に増加し、異常気象の発生、氷河の融解、海面上昇などを引き起こしています。

家庭での取り組みとして、省エネ機器の選択・買い替え、省エネ適合住宅の建築や築後の断熱工事、太陽光発電の設置など、環境意識を持ってライフスタイルを変えてみましょう。

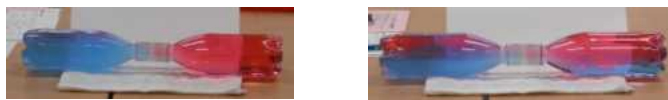
海流 (9月27日)

【海の中にある流れがどんなことを起こすかな?】
講師：体験学習クラブ なめく代表の佐藤宏氏ほか

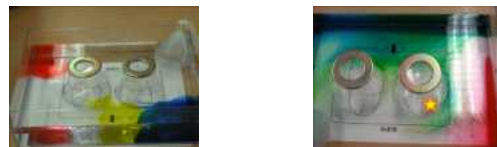
実験を通して、科学と環境について学ぶ講座です。青いインクを食塩水(左)と真水(右)にたると、インクは食塩水では浮き、真水では沈みます。重い順に食塩水、インク、真水ということがわかりました。



2本のペットボトルを使って冷水と温水の重さ比べをしました。各液体には前もって青(冷水)と赤(温水)の色をつけてあり、慎重にペットボトルの口をチューブでつなぎます。温水は軽いので上へ、冷水は重いので下へ移動しました。真水と食塩水でも同じ実験をしましたが、結果は軽い真水は上、重い食塩水は下になりました。



海にごみを捨てるとどうなるでしょう?
海に見立てた水槽の水にいろんな色のインクをたらし、ごみを捨てたものと見ます。



の実験で海には流れがあることを知りましたが、遠くにごみを捨てたとしても、海でつながっている世界では、結局は私たちの近くに流れてくるということがわかりました。みんなできれいな海を守る大切さを学んだ講座でした。

オランウータンと自然を守る活動 (10月11日)

講師：東京サラヤ株式会社 常務取締役 丹波章彬氏

ボルネオにおける同社の環境を守る活動についてお話いただきました。

ヤシを原料とするパームオイルは私たちの身近な食品に多く使われていますが、最近ではアレルギーを起こしにくく、自然界で分解しやすい特性を活かして、せっけん、シャンプー、洗剤など環境にやさしい商品に使われています。同社ではヤシノミを原料とした液体せっけんや食器用のヤシノミ洗剤を作っています。



鼻や脚にロープが食い込んだ子象

石油などの化石燃料の代わりに「環境に優しいバイオディーゼル」として需要が多くなっているこれらパームオイルですが、その85%は東南アジアの熱帯雨林を破壊しながら作られた大規模なプランテーションで栽培されています。そのためその地域に生息するオランウータンやボルネオ象の生息域が狭まってきています。



同社ではプランテーションに侵食されたジャングルを一部買戻し、川の流域に「緑の回廊」を作って動物の生息域を広げようというNPO法人ボルネオ保全トラストジャパンの活動支援を開始しました。

野菊の苔玉づくり (10月16日)

講師：秋草会メンバー

今回の草花は秋を彩る野菊3種、「ノコンギク」「イズオトメ」「アシズリノジギク」そして「ヒメタデ」です。

ノコンギクを中心に植物のバランス、芯の向きをうまく考えて、植え付ける状態を確認しながら苗の土を少しずつ落とし、好みの形に配置します。



形が決まったら苔を下地にしっかりと密着させて、糸を下から上へと十字に数回ぐるぐると巻いたらできあがりです。

さあ、できあがりしました。同じ寄せ植えでもそれぞれの個性が出ていてどれも素敵ですね。2~3週間後には開花予定とのこと。

写真右は開花したノコンギクです。



旧東海道を歩いてみませんか

東海道は開かれて400年以上がたっています。その日本橋(江戸)から京都三条大橋までの街道沿いに、現在も当時の町並みが残っているところは、関宿(三重県)をはじめ都市部でないところが多いです。しかし東京23区でありながら、品川宿には古い町並みが残っています。もちろん江戸時代の宿場そのものではありませんが、昔そのままの細い道、神社、仏閣など江戸時代に思いをはせることができます。

品川駅から八ツ山橋を渡り旧街道に入ると、問答河岸の碑(右)があります。あたりは北品川本通り商店会で、ところどころにお休み処があり、手軽に休憩に利用できます。この商店会には旧道ならではの歴史を伝える店舗が何軒もあります。品海公園のあたりで日本橋から2里(約8km)、少し進むと品川宿の本陣跡がある聖蹟公園、入口には土山宿から送られた



松の木があり、この公園の名前は明治天皇が休息したところから名づけられたものだそうです。(本陣とは、江戸時代参勤交代などの際、大名・貴人が泊まる宿泊所のこと) 聖蹟公園をあとにして少し歩くと、

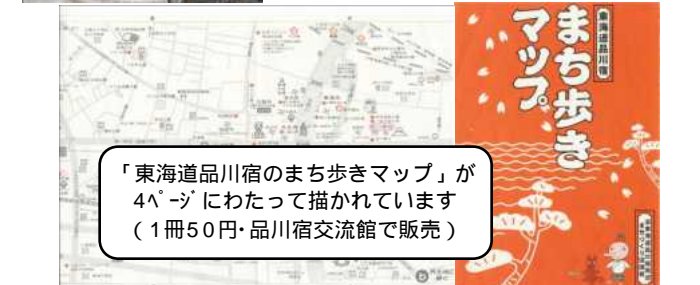


北品川近くの東海道品川宿お休み処

北品川と南品川の境である品川橋(左下)がありません。橋の手前に「品川宿交流館本宿お休み処」(右下)があり、品川宿の話を聞くことができます。



古い町並みを残すことは、必要な開発は進めつつ、一方で環境の保全を考えることにより、古いものを大切に守っていくことにつながると思います。そういった気持ちを大切にしたいですね。(左)品川宿の松



「東海道品川宿のまちな歩きマップ」が4ページにわたって描かれています(1冊50円・品川宿交流館で販売)

東品川海上公園へ行ってみませんか

東品川海上公園は区民に水とみどりに親しんでいたく憩いの場所として整備されています。

春には園路の桜並木がとてもきれいで、秋にはその紅葉(右)が見られます。冬には運河沿いに咲くナンキンハゼの白い実(下)が私たちの目を引きま



す。ガーデナーによってよく手入れされた屋上庭園(2007年3月31日オープン、一般開放は9時~21時)では、春のバラやチューリップ、イングリッシュランダム、初夏のアナベル、夏のスイレンやダリア、秋のサルビア、冬



のジンチョウゲなど、四季を通して美しい花々が私たちを迎えてくれます。公園内には芝生が張られており、夏場には鮮やかな緑の芝生の上で親子で楽しむ光景

が、また噴水広場では子供が水遊びをする様子が見られます。

アイル橋に立つと、この時期(冬場)よく晴れた日の朝には目黒川上に富士山を見ることができるようになります。

春と秋には「みどりと花のフェスティバル」が開催され、苗の販売も行われます。近くで自然にふれあえる東品川海上公園をぜひ訪れてみてください。



屋上庭園で冬に咲く花々



ジンチョウゲ

ミモザ

マンサク